

昭和十五年九月十六日發行 (一日發行)

東口金

二六二一八番 (櫻蔭共濟會)

發行所 櫻蔭會
電話大塚五〇〇九番

印刷所 青田伊祐
電話下谷(四)五五七番

櫻蔭會報

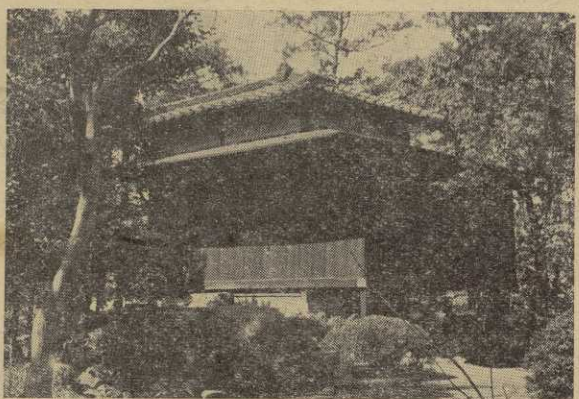
號六十三百二第

靜寛院宮御由緒の建物

下村 壽 一

麻布市兵衛町の東久邇宮御邸の一隅に離れ座敷やうの小さな一棟の建物がある。明治七年靜寛院宮贈一品内親王が麻布御殿を隠棲の地とお定めになつたときに建てられ、芝山内の樹間にほの見ゆる夫君家茂公の廟所を遙拜しつゝ、その冥福を祈る爲朝夕の勤行一日も怠らせられなかつた御持佛堂であると言ひ傳へられてゐた。

宮が薨去遊ばされてから春風秋雨六十數星霜、麻布の御邸内には幾變遷があつたからこの建物が果して當時のままに遺存されたものか否か、側近に御仕へ申した故老の人々も凋落されて知る由もなかつたが、幸に宮内省圖書寮編修官樹下快淳氏の綿密詳細なる考證の結果、この建物こそ正しく言ひ傳へらるゝ如き宮と最御縁りの深い尊い建物であることが分つた。



の建物を頂戴して然るべき處に移築し、御令徳宣揚の資に供したいと言ふのが、財團靜寛院宮奉賛會關係者一同の熱望するところであつた。

薨去の後未だ左程多くの年所をも経過せぬに拘らず、宮の御遺物として芳躅を拜し得るものは甚少ないことであるから、おほけなきことながらこ

に奉仕する浄土宗大本山増上寺とが連署を以て御下附方を願出たところ、種々詮議を重ねられ、本年三月宮内省より右御由緒建物御下附の恩命に接した。誠に光榮至極のことである。

爾來奉賛會は増上寺側と協賛して原形のまま建物を大本山附近の小高き場所に移築して衆庶の拜觀に供し、永く御令徳を宣揚し以て世道人心に裨補せんとして計劃を進めて居たのであるが、このこと圖らずも九重雲深きあたりの上聞に達し、本年七月二十三日畏くも皇后陛下より右計劃助成の有難き御恩召を以て金一封を御下賜あらせられた。私は奉賛會を代表してこの辱けなくも尊い御下賜金を拜戴して恐懼感激真に措くところを知らなかつたのである。

空前絶後の總會

斯波 安

宮の崇高極りなき御令徳は既に小學校の國語讀本にも登載せられてある位であるから茲には絮説せぬ。今や我が日本は開關以來未曾有の重大時局に直面し、國運の將來は正に一億國民の努力と覺悟の如何にかゝつてゐる。この努力と覺悟とは男女の間に毫末も區別があつてはならぬ。眞に

一億一心の實を擧げなければならぬ。私は諸子が畏れ多いことながら、明治維新の際國家動亂の危機に當つて、一身を挺して君國の爲御盡瘁遊ばされた宮の御心事と御行動に倣つて、君國の爲に至誠を捧げる盡忠報國の心掛けを彌が上にも堅くせられることを至囑するものである。

紀元二千六百年七月二十七八の兩日第卅九回櫻蔭會總會を樞原八紘寮に於て開催した。われらは輝かしい紀元二千六百年に生れ會ひたるだけでも光榮を感ずるのに、畏くも神武天皇都を定めたまうた樞原の聖地に於てわれらの總會を開くことを得たその無上の光榮と歡喜とは筆舌のよ

く盡すところではない。「八紘を掩ひて宇となさん」と宣はせられた神武天皇の御鴻徳を偲び奉るにふさはしい八紘寮に各地から集り來つた會員約百名顔は緊張して一層照り映え、體は感激に戦き第一日の日程を終了し、第二日早朝心身を潔齋し打ち揃つての樞原神宮參拜畏しとも畏い極みである。清浄な廣い神庭を踏む足音さへ物靜かで、神前に整列して一同拍手打つ

會告 (一)

櫻蔭會工業教育研究部技術員養成第二回募集
一、募集期日
自昭和十五年九月十二日至同 十月二日迄
至同 十月二日迄
所定用紙(本會にあり)に要項記入の上査定料壹圓を添へて出すこと。

一、査定

十月四日(金)午前九時、受付順に本會にて口頭試問を行ふ(前學校通知簿持参のこと)

一、講習料

一時拂 四拾五圓
月拂 八圓

(備考) 第一回生は夏期休暇中製圖を以て國策に副ふ仕事をなし、相當の収入があつた。

目次 (大要)

- 一、靜寛院宮御由緒の建物 下村壽一
- 一、空前絶後の總會 斯波 安
- 一、皇紀二千六百年第三十九回櫻蔭會定時總會
- 一、總會に於ける豫算案の説明 中井すゑ
- 一、役員會記事
- 一、昭和十五年度評議員氏名
- 一、櫻蔭共濟會記事
- 一、櫻蔭共濟會評議員半數改選
- 一、樞原行 沼澤 孝
- 一、總會に關する感想及び希望 越智キヨ
- 一、八紘寮の集ひ 西脇リカ
- 一、工業教育研究部報告 松村とみ
- 一、教育科學研究協議會に出席して 北田慰子

皇紀二千六百年 第卅九回 櫻蔭會總會

昭和十五年七月廿七日
於檜原神宮八紘寮
司會者 沼澤 孝

次 第

- 一、皇居遙拜並に感謝黙禱
- 二、開會の辭
- 三、會務報告
- 四、研究報告其他
- 五、女子教育研究會
- 六、女子高等教育研究部
- 七、紀元二千六百年記念事業
- 八、國產染料研究
- 九、共濟會
- 十、櫻蔭會史
- 十一、女子工業教育
- 十二、櫻蔭高等女學校
- 十三、議長選舉
- 十四、議事
- 十五、特設教員養成所卒業生を會員とする件
- 十六、皇紀二千六百年記念事業として女子工業學校設立の件
- 十七、明年度豫算
- 十八、評議員認定
- 十九、閉 會

以上の次第で總會に入り
一、皇居遙拜並に感謝黙禱を
行ひました。

二、開會の辭 斯波 安

お暑う御座います。各地方より此の様に多數お集まり下さいましたことは本部と致しましては喜ばしく有難く厚く御禮申し上げます。輝やかしい紀元二千六百年に櫻蔭會の總會を此の檜原神宮の大前に於て開くを得ました事は何と云ふ光榮、何と云ふ喜びで御座いませうか。萬葉時代の歌人ではありませんがその歌人の歌に御座います「御民われ生けるしるしあり天地の榮ゆく時にあへらくおもへば」と云はれて居る様に私達はその萬葉の歌人そつくりの氣持になつて此の會合の有難さ、忝けなさに浸る事が出来ます。何としましては此處に總會の開かれました事は感謝感激の至りで御座います。此會合は大坂の方々、奈良の方々等、主として近畿の方々の御努力に依り成つたものであります。櫻蔭會の本部と致しましては何の骨折しも致しませず、地方の皆様にお世話して頂いて何とも御禮の申し様も御座いません。聖戰第四年に入りまして御承知の通りヨーロッパ

の情勢又刻々に變化して居ります。我國に於ても最近新内閣の成立を見、七月廿三日近衛聲明が發せられました。近衛首相は非常に教育と云ふことを尊重せられ從來の我國の學問は足の大地に着かない感があること云はれて居ります。そうすると今迄の教育はフラフラ教育とでも云ふのでありませうか。思ひ切つて今迄の

て居るものはそれに添ふ所の仕事をしなくてはなりません。夫故に櫻蔭會に於いても櫻蔭會は櫻蔭會の任務を如何にすれば果す事が出来るかと云ふ事を考へ、その教育報國と云ふ事について國家に奉公の誠を捧げなければなりません。それから此の記念すべき二千六百年に當る此の年にも一つ我々の喜ばなければなら

會 告 (二)

本年度總會は左の重要な件を決議した。

1. 皇紀二千六百年記念事業として、櫻蔭會は女子工業學校を設立すること。
 2. 右の事業達成の爲め、會員は一口金拾圓として幾口にても應分の寄附をなすこと。
- 右につき左の要項により御協力下さい。

申込期限 昭和十五年十月末日迄
送金期限 同 十二月末日迄

(送金は都合にて半口宛分納にても可)

教育を悪く云はれて居ります。國策であらうが、國內の政治であらうが、皆教育から出てくるものである。教育は國家の根本であるから、その教育をしつかりと施さなければならぬ。教育者自身道を重んずるの誠を持たなければならぬ。私達教育の道に携はつ

ても、もつと私共で研究しなければなりません。來年から國民學校が實施されますが、その上はどう云ふ形になりますか、早晚女子高等師範學校は女子大學となる事と思ひます。私達の任務は重大であります。かう云ふ様な時でありますから時局問題に對しても亦色々考へなければなりません。そして櫻蔭會としての盡すだけの事は盡さなければならぬと思ひます。今日は此の機會を利用して皆様に思ふ存分平生のお考へを出して頂き教育界の爲に、櫻蔭會の爲に、出来るだけの協議をして頂き度いと思ひます。記念すべき二千六百年の時に當つて此の聖地に於て開かれた此の會がよい結果をもたらす様にしたいと思つて居ります。それは大阪の方々、奈良の方々のみの喜びではなく全櫻蔭會員の喜びであります。又引いては全日本教育界の喜びとな

三、會務報告

自昭和十四年八月一日
至昭和十五年七月卅一日
庶務報告 淺見喜代

○役員會

主事會—十四回(前年度十三回)、評議員會—七回(前年度三回) 他に級代表の會二回及各種委員會などを合せますと相當の活動振を示して居ります。

○定例行事

- 1、慰靈祭
十月廿一日午後二時より櫻蔭會館に於て過去一ケ年間に逝去せられたる、客員下村三四吉先生、三上參次先生、會員 三十七柱の靈位を祀りました。祈御冥福(現在會員數四、一三六名 ならば死亡率〇・九%弱)
- 2、新年懇親會

會 告 (三)

本年度總會の決議により年末作成の會員名簿は御希望の方に限り配付する事になりましたから

御卒業年度、科、氏名、

御名記のはがきを以て御申込み下さい。
御申込みの方には御送り致しますねから御承知おき下さい。

申込期日 九月末日まで
追申 御住所異動の方は至急御一報下さい。

一月廿日午後一時より母校
第二合併教室に於て開催、

(1) 東日新聞募集の紀元二
千六百年史懸賞論文一等

當選の藤谷みさを氏(大
正十三年文科卒)表彰。

(2) 外務省情報部長須磨彌
吉郎氏の「最近の國際情
勢」と題する有益なる講
演を聴く。

3、新入會員入會懇親會
三月廿二日、九段の軍人會
館に於て開催、ガンドレッ
ト恒子女史の講演及山崎光
子、沼澤孝兩氏の獨唱など
あり極めて盛會。

4、皇紀二千六百年第卅九回
總會

○本年度の本會事業
1、皇紀二千六百年記念事業
(總會報告にあり)

2、櫻蔭會史の編纂(同上)

3、女子教育研究會の成立
(同上)

4、櫻蔭會工業教育部技術員
養成所開設(同上)

5、北支滿鮮視察報告會
昨年十月十二日、本會より
派遣の西野みよし、佐々木
孝兩氏及同行の松平友子、
安東貞の兩氏の報告會を行
つた。

6、東京特設中等教員養成所
入所生歡迎會
第一回 昭和十四年九月卅
日(土)

第二回 昭和十五年六月八
日(土)

本會會館に於て開催、主事
が主人役を承る。

7、支那語講習會
第二回目を開催致しました
が、聴講者少く遺憾ながら
昨年十一月限り中途にて打
切。

8、専任主事決定
昨年度の第卅八回總會の決
議により、役員會に於て詮
衡の結果、沼澤主事に決定
9、會員の表彰
(1) 大正十三年文科卒の藤
谷みさを氏、東日新聞募
集の紀元二千六百年史一
等當選。

(2) 昭和十二年文科卒の今
澤ふきこ氏、朝日新聞主
催懸賞興亞行進曲に内閣
總理大臣賞、副賞金二千
圓に入選。以上二氏表彰
○會員家族の應召
今年度は特別にお伺ひ致しま
せんでしたが、本會に届出の
ありましたのは、
出征 子息六名、戦傷 夫
一名、戦死 夫三名、子息
一名
であります。御届なき方々も
相當ある様子、御出征の方々
の武運長久を祈願し、護國の
英靈となられた方々の御冥福
を祈つてこの報告の終りと致
します。

四、研究報告其他 (一) 女子教育研究會報告

斯波 安

昨年の總會の決議により、櫻
蔭會に
女子教育研究會が設けらる
七部あり、

1、學齡前教育研究部

2、國民學校教育研究部

3、女子中等教育研究部

4、女子高等教育研究部

5、生活科研究部

6、社會教育研究部

7、教育資料蒐集調査部

各部研究については

毎月第二回曜 各部會(部
によつて二回のところも
ある)

第四回曜 總會
總會にては各部にて研究
したることを報告し更に
研究する。

總會は昭和十四年九月より

新體制と櫻蔭會につき

日本朝野を擧げて新體制なるものを刮目し、個
々一大革新の眞意を把握し、協力して東亞の發
展に資さうと努力する秋、櫻蔭會は何をなすべ
きか。政黨のやうに、歸選獲得同盟のやうに解
消する必要はなからうが、女子教育は教學刷新
の一要課題ではなからうか。遅々として進展
しない女子教育の諸問題を急速に發展せしめ得
る時ではなからうか。當局者のみに任せて置い
て其目的を達し得るであらうか。
會員各位日夜熟慮して頂きたい。尠くとも委
員會を作成して本會の方針が検討されねばなら
ないと思ふ。
會員各位御意見のある所を本會宛御申出いた
だきたい。

2、國民學校教育研究部
3、女子中等教育研究部
この部にて女子工業
教育研究
4、女子高等教育研究部
5、生活科研究部
6、社會教育研究部
7、教育資料蒐集調査部

15年六月迄、開會十一回
尙詳細は會報に出てゐます。
御覽を乞ふ。
(二) 女子高等教育研究部
報告
櫻蔭會にては從來は母校の
昇格即ち大學にせしむる爲種
々研究調査をなし、昨年まで
は學制調査委員會といふ名に

てこの事を行つてゐた。
それを昨年九月よりは女子
教育研究會の中の一部門とし
女子高等教育研究部といふ名
の下に從來と同じ目的で動い
て参りました。御承知の通り
教育審議會といふ力強い會で
學制全般が審議され、幼稚園
から大學迄の學制案が最早完
成の域に達しました。而して
今や大學令による女子大學設
置が認めらるゝに至り御同慶
の至りに存じます。我が委員
が此の一年間にしたること
を申し上げれば母校校長の意
圖「騒いではいかぬ」の御趣
旨により常に「靜觀して機を
覗つてゐた」のである。併し
今迄になしたることは
十四年十一月十三日 委員、
母校々長と御相談す。その
結果

會告 (四)

人事紹介係再興及擴張

一、會員多數の方の御希望により、改めて再び係を置く
事にいたしました。
一、まづ會員の就職、結婚及その子女の結婚、會員の子女
寄宿につき求むる方、應ずる方の取次をいたします。
一、文書により要領を御申出下さい。氏名、年級を明示
せず會報に廣告いたします。
一、相方の要求が大體合致しますれば、相方に御通知し
當事者同志で御相談御取きめ下さい。
一、單なる御取次に過ぎない事を豫め御承知下さい。
櫻蔭會人事紹介係委員
井上 孝
沼澤 孝

十一月十九日 丸の内會館に
特別委員長 田所美治氏、
整理委員長 林博太郎伯、
母校々長を招待し委員、理
事、監事出席御願ひする
ころあり。
十二月三日 委員、母校々長
と會談、主として資金問題
である。
十二月十八日 審議會委員松
浦鎮次郎氏訪問陳情した。
昭和十五年に入りて
一月二十五日 本會研究部委
員及有志集會、教育審議會
整理委員會いよ／＼開會さ
れ大學問題に及ぶといふの
で「女子大學に家政學部の
設立を要望す」といふパン
フレットを検討し大論戰數
時、遂に委員附託となつた
が、
一月二十六日 一舉に教育審

議會整理委員會に於て左の件々が決定された。

1、大學令による女子大學設置認められる

2、女子大學に家政大學も認められる

3、男女共學も同様

4、女子の中等教員は女子大學卒業者より採用する

右のことありしにより本會としては直に斯波、山崎、沼澤の三委員は田所、林兩委員長宅へ御禮に行く。

猶ほ吉岡彌生、井上秀子、安井哲子、斯波安の四名は松浦文相、林伯、田所兩委員、關屋前文部次官、母校々長の宅へ御禮に行く。

五月に至り教育審議會總會開催され、學制々度定まり女子大學設置の件も確定的になつた。

此の時奈良女高師校長、並に佐保會より

キヨウイクシンギカイニオケル、ジョウダイガクソウセツノ、ケツギニツキ、ゴ

ジンリヨクヲカンシヤシ、ナホコレガジツゲンニカン

シ、一ソウノゴハイリヨコフ、ナラジヨコウソコウテ

フヒダ

ジョウダイガク セツチノケン ゴドウケイニゾンジマス ナニカトヨロシクネ

ガヒマス サホカイの電報があつた。本會から

ジョウダイガク ソウセツハ ネンライノキボウ、ゴ

ドウケイニタヘズ、オホイ

ンカイと返電して置いた。

(三) 紀元二千六百年記念事業について報告

十四年總會に於て銓衡委員が出来て記念事業委員定まる

女子教育研究會委員即記念事業委員である。

女子工業教育機關設置教育相談所、婦人子供に關する相談所の設け

女子教育圖書館の設け等あつたが

女子工業教育機關設置が記念事業委員會及び主事會を昨年にて通過した

が

評議員會にて更に研究を要すとし、遂に記念事業と切り

放して

本年三月より本會に製圖講習會を開催した。

而して結果大によろしきところより遂に

本年六月十七日の評議員會に於て

紀元二千六百年記念事業として女子工業學校設立の件を可決した。

(四) 國産染料研究報告

工業大學、母校の先生方等に依つて昭和十四年から研究

を始め昭和十四年の總會にも報告致しましたが、東京工業

大學の染料時報と云ふ本に依つて全國の染料會社へ返答を

求めました所、四十三會社の内、返答のあつたもの二九、

その内染色業のもの二十會社の染料目錄標本帳を基とし、

之に商工省當局の御厚意に依り貸與された調査を參考とし

てまだ返答のない分を補つて左の目錄を作つた。

一、直接染料 三三六種

二、硫化染料 三〇六種

三、鹽基性染料 八〇種

四、酸性染料 一二七種

五、媒染染料 一六六種

六、酸性媒染染料 六八種

七、不溶性アゾ染料 四二種

八、其他 七六種

計 一一八九種

尚二十會社の返答に基き文献を參考として、各種染料の

染色法及染色物の堅牢度試験法の調査を完了し、帳簿にまとめた。

(五) 共濟會報告

總會の時の謄寫版印刷にて大體説明をなし、會員の加入

特に京阪地方の方の入會を希望した。

(六) 櫻蔭會史報告

櫻蔭會史は眞に至らない者でありませんが、私はその仕事

を引受け、昭和十二年には如何に編纂するかの大體を決定

し、第一回以來卒業當初文獻にない材料蒐集等を行ひ、十

三年及十四年間は唯一人の編輯員を使ひ、下田顧問、山崎

委員に相談して自分は毎週月曜と金曜の二日間を此の事だ

けにかゝり切りました。女子の高等教育と云ふものが結婚

にどう云ふ影響を與へるか云ふ統計も取つて見ましたが

そんなには悪くはなく、明治十二年から四十五年迄八二%に

なつて居ります。それから年表の様な所も參考になるかと

思ひます。要するにこれが女子教育の側面史とも云はれる

ものになるのではないかと思ひます。御入用の方は何卒御

申込下さい。印刷するに當りまして御承知の通り紙が大變

不自由でいつそ止めやうかと云ふ説もありましたが、折角

これまでにして置きながら紙の爲に止めるのも残念と思ひ

交渉して五百部注文致しました。印刷會社では七圓では損

をする云ふので七圓五〇、になり、更に又上つて八圓になりました。三千部、四千部

位の申込みになりますと、もつと安くなります。此の會史を造るに當りまして如何に苦心したかを御想像願ひます。

而して十五年三月全部脱稿、會に引渡し會は印刷其の他の事務をやつてゐますが、今尙

引續き校正中である。自分としては出来る丈の努力を拂つてよいものを作り上げたいといふ念願でしたが、批評

をして頂き、今後誰方か更に修正を加へられ、この次の頁を附加されるやうにと希望

します。

(七) 女子工業教育報告

二千六百年記念事業として女子工業教育研究會と云ふものが去年十月廿三日に始めて

出来ました。四月十日に講習會を開始するに當り、生徒を募集した所が五十二名集まり

その内から選抜して三十九名取りました。講師は二人で一人は奥井さんと申し中島飛行

機會社の重要な人であつたが女子の優秀な製圖工を作ると

云ふ目的で此の方に來て頂く事に致しました。今一人は服部さんといつて工業大學を卒業された方です。

生徒も中々熱心でありまして、始めの二十二時間を三十三時間に猛訓練を致しましたが、女學校の生徒達と違

つて授業前は二十分位前から教室に入り授業が終つてからも校舍を借りて稽古をする

云ふ熱心さであります。學科は代數、三角、立體、幾何一二五時間、設計製圖一

七四時間、應用力學七十三時間、工業七十二時間、等で頭のよいのが三十九人の内五、

六人は居ります。これも東京であるお蔭で色々な展覽會や博物館を利用して實地につ

て研究を進める事が出来て誠に好都合であります。陸軍省の工政課では卒業生を全部も

らつて各會社に配属してよいと云ふ申込みであります。國家と云ふ立前から見て方面を軍需關係ばかりに限る事なくその他の會社へも、櫻蔭會員の關係して居られるかうした方面にもお入用があれば配らなければならぬと思つて居ります。就職の方は手を受けて待つて居ると云ふ具合で就職についての心配は絶對にない譯であります。生徒達も大變よこんで僅か三ヶ月か四ヶ月で以て國家の重要な仕事に参加して昭和國防の第一線に立つ事が出来ると云つて大變な感謝であります。又校長先生も非常に此の會に力を入れて下さいます。此度會で體操を始め度いと申上ると、本校の先生に頼んで

指導をしてもらふと云ふ事を御許しになりました。九月には二回目の生徒を募集する事になつて十月一日から授業を始め、二部になります。皆様の内に講習を受け度い人がありましたら、何卒お勧め下さい。

(八) 櫻蔭高等女學校報告

宮川 久

櫻蔭高等女學校は關東地方の大震災の際、帝都の大半が灰燼に歸しました時に全國の櫻蔭會員が會の事業として大正十三年に設立いたし本年で十六年になります。先生も生徒も熱心にもり立て、これ後援會も立つて居ります。

櫻蔭會の事業と云ふので世間からも認められ、本年は東京の公私立を交せて女學校では一番入學志願者が多かつたのであります。百五十人の所千三百人もありました。然しお茶の水とか府立とか兩方かけて居るものもあるので實際の受験者は減つて居ります。此の調子で行けば定員を増すより仕方がありません。七百五十人の所を千人にしなければならぬと思つて居ります。急な事にはなりません、その筋に願ひ出で今のまゝではやつて行けないので近い内に擴張しなければならぬと思つて居ります。地所も買は

なければなりません、現在は土地も家も高く僅か五六坪の地上権だけで一萬五千圓であります。時々様子を見て居りますが、本年は三萬圓であります。それで當惑して居りますが、どうしても擴張しなければ生徒を入れる事が出来ません。生徒が多くなれば經濟上も樂になる譯でありますから、皆様方の御助力をお願いする次第であります。

五、議長選舉

越智キヨ氏當選し議長席につき議事に入る。

〇議事

1、東京特設中等教員養成所卒業生を會員とする件

説明者 淺見喜代

東京特設中等教員養成所のことは新聞紙上で御承知のことと存じますが、これは厚生省の外局軍事保護院の企劃で戦歿軍人軍屬の寡婦人に二ヶ年の修業で家事、裁縫の二科目の中等教員資格を與へるもので、母校内に特設せられ、下村母校長がその所長を兼ねて居られます。開所は昨年九月十一日、各府縣より推薦のものから選ばれて第一回の入所生は卅二名で、内女師卒三名、高女卒廿七名、實科卒一名、實業卒一名であつて、年齢は最高三四、一〇、最少一九、五、子供のあるもの廿

一名、内子供十一名は母と共に板橋區の秀貞寮に入舎、保護を受けて居ります。戦歿者の階級は中佐から上等兵に至る種々です。同様にして第二回の入所生は卅名で、去る四月入所致しました。この内女師卒二名、高女高等科卒二名、高女卒廿三名、實科卒二名、實業一名で、年齢は最高三二、六で最少は二二、二で、子供のあるもの十六名、内三名の子供は母と共に入舎致して居ります。戦歿者の階級は少佐から一等兵まで色々でございます。

これ等の入所生は夫なき後を教育の道に精進することによつて慰を求め、且つ家を支へ遺されたる子女を教育しつゝ再起奉公を誓ふ立派な女性で、私は先に行はれました歓迎會に目のあたりこの尊い人格にふれて、この方々が將來教育界に巣立られたとき、その教子に及ぼす感化のほども想像出来まして頼もしく思ひました。教育界は双手をあげてこれ等の方々を歓迎致しました。本會も亦これを大に歡迎すべきだと存じます。所が本會の定款第五條に於て規定してある會員たることを得る資格には當りません。そこで今回御賛成を得てこの第五條を

本會ノ會員タルコトヲ得ル者ハ舊東京女子師範學校、舊高等師範學校女子部、舊女子高等師範學校、東京女子高等師範學校、第六臨時教員養成所ノ卒業者トスとあるを

本會ノ會員タルコトヲ得ル者ハ舊東京女子師範學校、

舊高等師範學校女子部、

舊女子高等師範學校、

東京女子高等師範學校、

第六臨時教員養成所及東京特設中等

教員養成所ノ卒業者トス

と改正し、本會にその卒業生

を迎へ得るの道を開き、これ

等の方々の將來に私共同窓の

持つ誇りと便宜とを分ち得る

やうにし、これ等健氣な女性

を慰め且つ激勵致したいと存

じます。皆様の満場一致の御

賛成を希ふ。

右は満場一致を以て可決。

2、紀元二千六百年記念事業として女子の工業學校

設立の件

説明者 斯波 安

女子工業學校の必要は先程から種々申述べられました。右設立に就ては先立つものは金であります。他に寄附を乞ふにしても會自らが何等かの形を備へたものを作らねばなりません。其の上ならば毎年の經常費不足位は寄附しても

よいと申す方もあります。土地については中野邊に地所を探して居りますが、未だ確定しません。兎に角出来るだけ堅實な方法で、何でもよ

いから一つ基礎となるものを

作り出さなければなりません。

今日の時勢でありますから

會員に十圓位づゝの寄附を

願ひ出来るだけ澤山の人から

集めた方がよいと思ひます。

皆さん御意見があれば出して

下さつて御賛成を願ひたく思

ひます。

右寄附金の事について色々

問答あり、結局十圓を最小限

度としてそれ以上出来る人は

如何程でもよいと云ふ事で設

立と共に多數決を以て可決。

3、明年度豫算

印刷物により満場一致可決

(説明は別項にあり)

〇議事半にして消燈時刻となり

中止廿八日午前六時半より續

行

4、櫻蔭會評議員 認定

以上にて議事を終る

5、勸議提出(西脇氏より)

昨晚から今朝にかけて議事

が開かれましたが、それにつ

いて色々とお骨折り下さいま

した本部の方々に並にその他幹

事の方に對して一同を代表し

て議長より感謝の言葉をかけ

て頂き度いと思ひます。(一

同賛成)

6、越智議長挨拶

本部の方で色々御事業に従事遊ばしていらつしやる皆様方に於いては微かなお疲れもなく斯く議事に對しての説明もして頂きまして誠に一同總會に列席致しましたもの感謝に堪へません。ありがたう御座いました。お歸りになりましたら何卒他の評議員の方々にも一同の御禮をよく傳へられ度く存じます。誠にありがたう御座いました。(拍手)

7、右に對する斯波安の挨拶

私が覚えてまして以來、總會に於いて此の様な御待遇を頂きました事は始めてでありまして榮ある八紘寮に於て此の様なお詞を頂きました事は身にしみて感喜に堪へません。今後尚一層私達は出来るだけの事をして會の爲に奉仕をしたいと思つて居ります。皆様も尚一層の御援助をお願い致します。議長さん誠にどうもありがたう御座いました。(拍手)

議長

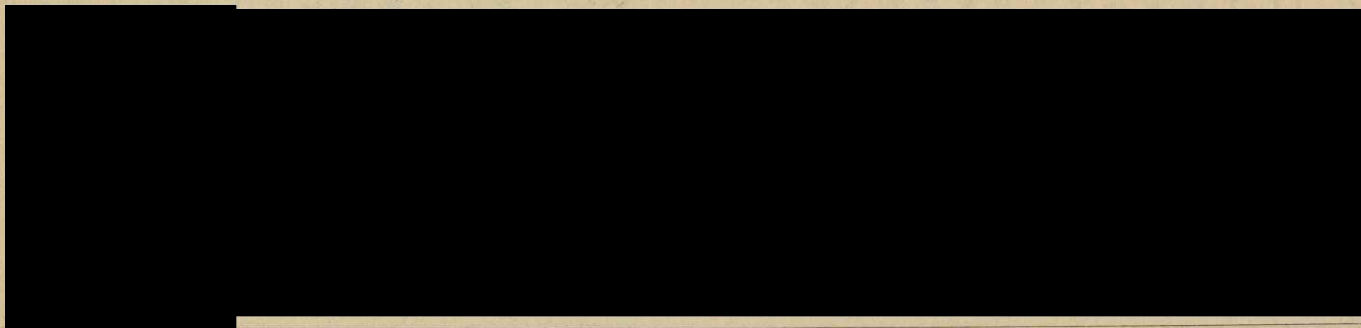
まことにどうも馴れませんが失禮致しました。今日御出席になつた方は本部の方々の御苦心をお傳へ願つて出来るだけのお手傳ひを願ひ度いと云ふ事を一言申添へます。

8、閉會の辭

宮川 久子

此の光輝ある二千六百年に當つて樞原神宮大前、八紘寮の廣間に於て櫻蔭會の總會を開きました事は何と云ふ意義深い事で御座いませう。先頃來本部の方々、地方代表の方々の色々なお話もあつて此の様な意義深い會合は未だ會つてありません。此の會合については近畿の方にお世話に相成り、本部の者はお客様扱ひにして頂きまして樂な役割となり何とも有難い事で御座いました。愈々事業も正確になり我國に於ても實に二千六百年を契機としてすべての立直しが行はれ、政界さへ立直しの時機に當りすべての體制が今迄と一變する時期であり、教育も亦躍進すべき時であります。近衛聲明にも國民の生命は一にかゝつて教育にありとあります。我々は女子教育界に於て年來輝やかしい功績を擧げて居ると思ひますが、皆さんと更に決心を固くして此の上ともに功績を擧げ度いと思ひます。

總會出席者(八十八名)



總會に於ける豫算案の說明

中井 承
會計について申し上げます。私は會計係になりましたのは今度始めてでございますので、大變複雑になつてゐる會計のこと、なかなかわかりませぬ。従つて御報告申し上げることも容易に御了解頂けないかとも案じられましたり又此會計には何も外からの収入があるわけがなく、四千二百人の會員の皆様からお出し下さつた會費、それを色々の部に振り別けて、時には融通してゐるといふ風なのでございませぬ。それ等の收支が一瞥のもとに、わかるやうにした方がよろしからうと思ひまして別に印刷した一覽表のものをお目にかけます。

會員數 四千二百三十六人
住所不明 九十四人
普通會費納入者 一、八一〇人
不明三二人(一、七七八人)
終身會費納入者 二、四二六人
不明六二人(二、三六四人)

會計
一、經常費
收入 通常會費(五圓)
終身會費(壹圓)
特別準備金等

支出 會合費、給料手當、印刷費、郵便費、消耗品費、備品、税金等
二、特別準備金
收入 經常費殘金
支出 經常費にまわす
三、事業費
收入 共濟會提供金
支出
四、維持費(會館)
收入 入會金(五圓)
支出 修繕、備品、借地料、保險料
五、獎學資金
收入 購賣部、返納金
支出 學資金
六、中川女子教育資金
支出 各種研究調査
七、購買部
支出 提供金(獎學資金)
寄附金、給料手當、贈與、豫備費
八、女子教育研究資金
元昇格準備金
九、原田女子教育研究資金
右のやうに九部にわけたのでございませぬ。つゞいて經常費から逐條御説明申上げる譯でございますが、時間の都合もございませぬので、重に十五年度の豫算について十四年度のと比較しながら申上げ、十四年度の部に ついては特別申上げなければならぬ事についてだけ申上げます。なほ又特に御諮りしなければならぬ事や、事情をお

話してお願ひしなければならぬ事もございませぬが、其場所場所申上げることに致しませぬ。(以下特別に説明した部分文けかきませぬ)
經常費收入 今年度は名簿が出ることになつてゐますので
第三項 特別準備金よりもは資金が多くなつてゐます。會報一部五錢、年六回パンフレット年十八錢、名簿一部五十五錢、雜印刷、郵便費等を計上して八二七圓四となりませぬ。
第七項 十四年度の臨時収入は豫算としてはなかつたのでございませぬが、總會がこゝで開催されることになりましたので、主事の旅費として事業費の講習會費からまはす事に致しました。

右支出
第一項 第一目の會議費が前年度に比較して多くなつてゐますのは物價が騰貴しましたのと、評議員會出席人數が増すものとしたからでございませぬ。
第二目 集會費が前年度に比べて、二三〇圓を増加しましたのは物價騰貴と養成所卒業生の入會懇親會費のためでございませぬ。
第二項 給料手當が十四年度に比べて一二〇圓の増加になつてゐますのは、書記の臨時手當であつて年二回にわけて渡すことにしました。
第三項 第一目 會報が元四錢のが五錢、パンフレット一部六錢のものが八錢、新入會員の分が四十錢のものが五十錢となり、又印刷部數も卒業生が二十七人増して一三三人となりました爲めに昨年度に比較して五六八圓増加してゐます。
第二目 名簿も今迄四十八錢であつたのが、五十五錢となりました。殊にこの名簿についてお諮りしたいのでございませぬ。それは本年度は全體の名簿を出すことになつてゐますが、印刷部數を減じて三八七〇部とし、名簿の送附希望を申込んだ方だけに送ることとしたらばといふことでもございませぬ。それは先づ第一紙の節約、第二經費節約のためでございませぬ。經費節約をこれに考へるやうになりましたのは、折角お送りしても死物になつてしまふのではないかと思はれます。又全會員四三〇〇人の内會費意納者の

方が約五六〇人全會員の約一分に當ります。それで納入者三七四〇人の數に、少し餘裕をつけて三八七〇部だけ印刷してはといふ事でございませぬ。

第七項第三目 電燈料は事務局節約する考のもとに昨年度より一〇圓減少しておきました。

第八項第二目 師範教育促進聯盟を脱會しましたので昨年度より三〇圓減少しました。

第三目 此所二三ヶ年間の平均をとつて五六圓減少しておきました。

第十一項 特別準備金積立金は會費未納者多きため計上しませんでした。

特別準備金支出の第一項については經常費第三項で申上げました通りでございます。

事業費支出の部

第一項 社會事業 十四年度 假決算 靜岡大火 五〇圓 光明學後援 三〇圓 計五三〇圓

第二項 會員慰問 十四年度 假決算 杉本、幸田、岡田、堀、重久、岡田、各

一〇圓 長谷 各五圓、計六〇圓

十四年度の假決算について内容申上げます。

第三項 講習會

昨年四月より七月迄と九月より十二月迄と二回支那語の講習會を開きました。第一回は收支償つたのでございませぬが、第二回は講習會員が少なかつた爲めに、七八・八圓不足金がございました。又現在製圖の講習をしてゐますが、製圖板其他の器具を買ひましたりした爲めに三二五圓不足しました。次に前に申上げました總會出席の旅費として八五圓、計四八八圓となりました。

十五年度としては製圖講習會に五三〇圓、夏季講習會に三〇〇圓計上しました。

第五項 先程可決せられた女子工業學校設立につきましての準備金五〇〇圓を計上しました。

第六項 十四年度の假決算の三五〇圓は會史宣傳費でございます。會史は皆様御存知のやうに六十周年紀念事業として始められたものでして、斯波先生が執筆せられ、下田たづ先生と山崎みつ先生のお骨折りで、こゝ二ヶ年

半の長い年月を費して漸くこの頃出来上つたのでございます。それを皆様

に買つて頂きたいと思ひまして會報により、パンフレットによりて御願ひしました。今更申上げる迄もなく我々の會の歴史がわかる丈けでなく、過去現在において會員の方々の活動ぶり又それから得られた種々の教育資料が出てゐます。兎に角創立以來はじめて出来た會史ですから皆様のごぞつて申込んで下さるかと思つておりました。案に相違でございました。それで役員はそれぞれ自分のクラスの呼びかけでその購入をたのんだのでございます。私も私のクラスの人達に呼びかけましたら殆ど全部申込んでくれましたので喜んでゐる所でございます。なほ又クラス代表の方に集まつて頂いて互に意見の交換をいたしました結果、全国の各女學校長、教育團體に勧誘したらばといふ事で宣傳費三五〇圓計上したしたのでございます。

會史の代價は初版五百部迄一部七圓五十錢、千部は五圓五十錢、千五百部は五圓、再版三百部五圓二十五錢、其外包装送料五十錢でございます。私が

出發する迄にはまだ四百三十部しか申込みがなかつたのでございます。紙は印刷會社に既にとのへてゐますので、今印刷しないと外にまわしてしまふかも知れません。そうなるとう高いものになりはしないかと案ぜられます。右のやうな譯でございませぬから、お歸りになりまして右の事情お話し下さつてお奨め下さるやうに願ひします。

維持費収入の部

維持費収入の部

第二項 卒業生の増加と養成所卒業生入會のため二九〇圓増加してゐます。

右支出 第一項 疊かへ等のため五〇圓増してゐます

奨學資金収入の部

第二項 貸付者減少のため返納金が三三五圓減少しました。

第三項 購買部利益減少の見込にて計上しませんでした。

中川女子教育資金利子支出の部

(元金一萬四千圓)

第一項 各種研究調査費

十四年度の假決算に於て國產染料調査費五〇圓、女子教育研究費二〇〇圓計二五〇圓、十五年は國

產染料調査費二〇〇圓、女子教育研究費四七〇圓です。

購買部支出の部

第二項 女子體育振興會へは本會の仕事も澤山あるのに經費がなくて困つてゐますので十五年度からは提供しないことに致しました。

第一項 提供金については前述の通りでございます。

第三項 第四項の給料手當は二人の給料を五圓宛増加しました爲めに昨年度より一三二圓増加しました。

女子教育研究資金

元昇格準備金と稱へておりましたのですが、既に女子大學も設立せられる事になりましたので名稱をかへたのでございます。

右支出の部の第二項 十四年度に於て女子教育研究費として三〇〇圓計上しました。

役員會記事

○主事會 七月一日

自午後六時 至午後九時半

出席者

協議事項

一、協議事項 櫻蔭會第卅九回(自昭和十五年八月一日)會計豫算につき原案により逐次協議をなす。

○評議員會 七月二日

自午後六時 至午後八時半

出席者

一、協議事項

一、來年度會計豫算案

二、工業講習會夏季休暇中休業の件

三、國語教科書編纂の件

出席者

出席者



新任評議員 氏名 留任評議員

女子製圖員 T M

一、第一回生を十月末社に送る事となつた。研究所又は會社の求人修了生の四倍以上、萬一廣告するならば、中には一流の會社の人事課の人が來られて男性同様必ず優待する故、ぜひ半數くれといはれ、一年たてば七十五圓には致します。今後は社長も女子を主として使はねば國防上困る故、女子なればとて割引してつかふ様な事は絶対にないといはれる。一流會社は福利施設もよく健康にも留意してゐる。

櫻蔭共濟會記事

〇定例役員會

昭和十五年七月九日

理事 市原壽見、江本ヨシ、西野みよし、馬上テル

監事 下田たづ、十文字こと、松平友子

一、六月分庶務會計報告

二、會計監査(六月分)

三、協議

一、死亡會員へ弔慰金贈呈の件

一、櫻蔭會總會へ出席の件

一、中元手當の件

〇第十五回定時總會
昭和十五年七月二十一日
午後四時櫻蔭會館に於て開催

一、次第

開會ノ辭 議長ノ選舉 會務報告 評議委員半數改選 其他

二、開會

出席者(五十名)

安東テイ、淺石ちゑ、市原壽見、石川ユキ、池内すなを、江本ヨシ、大關とよ、落合トヨ、久保やま、久保ツヤ、栗山つな、佐々木孝、下田たづ、十文字こと、斯波 安、富岡美子、中井すゑ、沼澤 孝、波佐谷美和、松村きく江、宮川ヒサ、水谷年恵、馬上テル 矢作てつ

委任狀提出者 貳百參拾名
市原專務理事の開會の辭について議長の選出あり。

議長 矢作てつ氏

三、庶務會計報告

市原專務理事より左の報告あり。

(イ) 庶務報告

(昭和十五年七月二十日現在)

一、共濟會員

一、二六二

一、櫻蔭會員

四、一四四

一、入會歩合

三割強

一、卒業年度別

客 員 一三

明治三十年以前 一〇五

入會歩合 (〇、六四)

明治四十年以前 二七四

(〇、四)

大正 六年以前 三〇二

(〇、三七)

昭和 二年以前 二二一

(〇、一)

昭和十二年以前 一五四

(〇、一三)

昭和十三年以後 一九三

(〇、五)

一、入會者(本年度四月以降) 五二

一、死亡者(同) 二

(弔慰金額二、〇〇〇圓)

死亡者累計 一四〇

(弔慰金額六、一九五圓)

一、平均年齢 四十四年十一月

一、死亡者平均年齢 五十四年 九ヶ月

〇會員地方別

Table with columns for regions: (方地國中), (方地畿近), (方地部中), (方地東關), (方地北東). Rows list specific locations and membership statistics for '櫻蔭會' and '共濟會'.

計	現貨	有價證券	銀行預金	郵便振替貯金	(口) 會計報告 (昭和十五年七月二十日現在)																			
					(方地部外)					(方地州九)				(方地國四)	山口									
計	金	金	金	金	總計	外	南	滿	關	朝	臺	沖	鹿	宮	大	熊	長	佐	福	高	愛	香	德	山
四四五、二八二	一三八	七、一五五〇	四〇六、五三二	二、二九三八四	四、一四四	二七	五	二	四	六	七	二	三	四	三	四	四	三	一〇	九	三	三	二	二〇
					外	一	一	〇	六	九	〇	七	三	七	二	九	六	七	三	二	九	四	二	七
					客員	一	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
					三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

◎本會ノ重要書類ハ總テ三井信託倉庫ニ保護預ケトシテアリ

マス

○收支勘定貸借表

借方	貸方
振替貯金 二、二九三八四	銀行預金 五、七六九四七
銀行預金 五、七六九四七	金銭信託 四〇六、五三二
有價證券 二、三、三、五〇〇	現貨 七、一五五〇
現貨 七、一五五〇	貸付金 二、〇〇〇〇
貸付金 二、〇〇〇〇	提款金 五、〇〇〇〇
事務費 一、〇〇八六	計 四四八、六二四三
計 四四八、六二四三	積立金 四三三、〇〇〇
	繰越金 四六、七四二
	利息 八、二五五
	計 四四八、六二四三

四、評議員半数改選
評議員候補者により選挙の結果次の通り決定す。

地方	選挙人員	當選者氏名	留任者氏名
東京	八	(手菅順) 市原 壽見 江本 ヨシ 岡 ハツノ 十文字こと 斯波 安 甫守 ふみ 水谷 年恵 馬上一ツル	安東 テイ 下田 たづ 西野みよし 松平 友子 宮川 ヒサ 保井 コノ
東北地方	一	(北海道) 安藤 左代	(宮城) 八木 ゆう
關東地方	一	(神奈川) 島岡マサエ	(千葉) 淺石 ちゑ (埼玉) 辻本 ルイ
中部地方	一	(愛知) 馬上はじめ	(石川) 赤倉外世喜 (新潟) 相澤 フミ
近畿地方	三	(京都) 田中 元恵 (大阪) 西脇 りか (兵庫) 望月 くに	(奈良) 井澤 きよ
中國地方	一	(山口) 藤井しげ代	(岡山) 西森 元

共済會今後發展の爲各自意見を交換し六時閉會後同所に於て懇親會を開き歡談の後午後七時半散會した。

客員會員異動
任所變更

○印は共済會員

會員計報

明 14

明 28

右病氣の爲め逝去せられました。本會は謹んで哀悼の意を表し細則第五條により右の通り弔慰金を贈呈致しました。

社団法人 櫻蔭共濟會

檀原行

沼澤 孝

○ 櫻蔭會劃期的の催、檀原神宮大前皇紀二千六百年記念總會は別報の如く極めて質實に豫定の通り着々と盛會裡に舉行された。

○ 一に關西四支部役員各位の熱誠なる御盡力と炎暑を物ともせず來集された會員の賜と感謝の外はない。

○ 七月廿七、八日は東京では暑氣凌ぎよかつたさうだが、大和平野八紘寮は實に蒸し暑かつた。一刻も團扇を手から放せない。

○ 第五寮二階五十位備附のベッドは清潔で静かで合宿とは思はれない心地よさだったが、夜半過ぎて團扇をつかはずに居られない暑さで、正に寝苦しさの百パーセントを體驗した。

○ 文字通り熱中の行だ。然し皇軍將士炎天下の行軍を思へば何物でもない。比較的安易な、豊かな日常を過して居られる會員達には一つの修行だと思ふ。此意味に於ても來會された方々は何物かを獲られたであらう。

○ 開會前の少刻をも無爲に過ぎず、圓座し自己紹介を行つたが時々異色ある談話が出て愉快だった。

○ 出席者中の最年長者と宣言された奥宮貞氏は七十何歳とか言はれたが、遠くから拜見すると五十何歳としか見えない。あくのぬけた、飄逸な談話で會場を忽ちに和やかならしめられた。

○ 神戸支部は議事の掛りとかで總會の次第を板書して下さつた西居フミ氏は御自分の結婚について親御さんの御心配御苦心を當時は理解出来なかつたが、自分が親になつて初めてそれがわかつたと云ふ平凡な前提から飛

躍して前夫人の子、即ち繼子に對する愛情の告白をなされ、そこに至つた御自分の態度について自信ある過去の體驗談を述べられたが、かくも人間味豊かな方が隠れてゐられるのだと、うれしくてたまらなかつた。

○ 九州戸畑からと云つて立たれた山本利と氏は何と自分が室長

にしはし思ひを走せた事だ。○ 神戸の堀ちよ氏も同じくその時の同室者だ。之は世間は女中難と云ふが、自分の所には親類の娘の嫁をたのまれて、子供に恵まれない身だが、いつも家庭は賑やかで、手不足に困つた事はないと云ふ素晴らしい話だつた。この爲だか何回も皇軍慰問

同室五人



誠傍山を背景にして

に大陸へ旅行されて居られると云ふ控へ目な手柄話、あとがつかへてゐなければ具體的にいろいろ伺ひたかつた。

○ 檀原への往路、鐵道の夜行の難儀を恐れて岐阜へ一泊し、長良川畔で涼を得ようと企てた。同級西尾氏には會史勸誘のついでにその旨報じては置いたが、思ひもかけず驛頭に現はれた一會員大館ひろ子氏け十八樓へ泊ると云ふ事で、一行の風雅心を思ひやり得ると云ふ建前のもとに大に御自身の最近の傾向を説

時代同室の理科出身者だが「あめつちのひろき生命につなかれる思ひ新たにまゐり路を行く」と、だれかの歌を朗詠された。此の詩情により一抹の優雅味を醍醐味を注入されたやうになつて、戸外の眞夏の神域の白い道

明されたり、翁に關する、惟然坊に關する遺跡の話や、旅館十八樓でなく眞の十八樓の跡、句碑「このあたり目に見ゆるもの皆涼し」を蔵される家に豫め交渉して置いて下さつたりした。

氏は茶道を通じて眞劍なる生活態度を若い娘に把握せしめようと云ふ理想をもつて居られるらしい。西尾氏は「自分は上級だのに却つて大館氏に引まはされて居る」と云ふ正直な卒直な告白も、うれしい言葉だつた。

○總會第二日の早朝、參集會員打揃つて神宮參拜をなし、鳥居を背景にして撮影した。同年度生で又た同室同志だつた郡山在住の西澤みつ氏は、奈良支部の役員で大に盡力して居られ、同じく戸畑の森フサヨ氏と五人食卓を共にして卅年前の同室氣分を味つたが、同室五人の撮影をしようと企てられ、後に残つて撮してゐるうちに故傍御陵へ大勢はいつてしまはれた。

疲れ果てた自分はこれ幸と八紘寮で一休みしようと思つた途端、ふと前に現はれた一人は曾て神田高等女學校に一年ばかり同じく奉職した事のある長田ハル氏だつた。自分の家へ今夜はとまれ、御陵めぐりをせよ、そこへ案内しようと思つた熱誠あふれる御言葉だ。こんなに優遇されてよい自分かしらと怪しくさへ思つたが、不慮にもまづ「水が

のみたい」と要求した。喫茶店へ伴はれ、大和西瓜をしきりにすゝめられる氏の友情甘露の如くとも云はう。

○明治卅六年度の方々のグループは、札幌からこられた石橋ツネヨ氏や松村とみ氏、岡山からこられた吉田ふぢ氏が参加されて玉の汗を流して熱心に説明される長田氏の案内で中將姫傳説の當麻寺を訪れた。謠曲當

奇 遇

櫻蔭會總會第二日は全國中等學校女教員大會の第一日であつた。この日全國から集り來る女教員を私は櫻原神宮お手洗のところで待つてゐましたところ、俄に「斯波先生」といつた人があつた。誰かと思つたら北京崇貞學校の清水郁子氏であつた。何といふ奇遇でせう、神武天皇神靈のお引き合せか。待ちもせぬ思はぬ人がかゝる聖域のお手洗の處に來やうとは思はなかつた。握手も涙の中、女教員の仲間に入つて貰つて一同櫻原神宮を參拜し、櫻蔭會の總會席に來て貰ひ一場の話をして貰つた。清水さんのことだから支那に於ける實際についての話、興亞は容易なことではない。十年—三十年—百年—二百年であると言き行き説き去れば満場水を打つたやう。感激に涙を催す方も澤山あつた。感激の迸る處、西脇さんの發議で帽子を廻して醜金した。立ち處に七八十圓、講演して頂いた考古學の末永先生も感激の餘り、お車代として差上げた物を水引のかゝつた儘帽子の中に入れてくれました。何といふ美しい光景でせう。感激又感激で、これが八紘寮に於ける掉尾の大きな成績であつた。

斯 波 安

臺は蘇我の馬子の古墳であらうと推定される。○大阪の満田あい子氏からは濱寺で少し遠いが、千代子の家へも泊つて下さいとの御言葉。○都ホテルの中等女教員の懇親會へ出席し、そのまゝ都ホテルへとまつて、廿九日の大會へも新波理事のすゝめに従ひ出席しようと思ひながら當麻寺であまりゆつくりしたので間に合はなくなり、松村とみ氏御婚の御宅

千代氏が第二日目にわざ／＼御宅から美しいハンケチを持つて來て下さつた。御志の有がたき感激せすにはゐられない。

○石舞臺見學は豫期以上の獲物だつた。飛鳥地方往路のバスから指示される橋寺、川原寺の名もなつかしい「あすか川」を渡る時は奈良に初めて遊んだ時の佐保川と同じ短歌を通じての王朝時代を床しく思つた。石舞

へとめていたゞく事にした。○香爐園といふ阪神電車驛から重いかばんを下げて數町歩いて事は心中不平だつた。夜が遅くて既に乗物が無いのだ。然し舞子の濱のやうな氣分へ夜目にもそれと解る松の太木に擁されてゐる公園の中央道をゆくので聊か氣持はよい。海岸のせいか關西はあついと云ふ言葉を裏切つていとも涼しく連日の睡眠不足をすつかり取りかへし、よく熟睡した。

○松村氏女婚御夫婦は留守で、松村氏と二人切。八人の子を育てあげたと云はれる松村氏の熱達した主婦ぶり母性ぶりに抱擁されて、のん氣に一夜を明した事は掉尾の雄だつた。

○但し朝めがさめて直ちに御心盡しの朝食をいたゞき跡片づけも手傳はずに一路京都へ向つたが、既に午前十一時半、大會には間に合はない。正午發でその夜の泊を信州諏訪湖畔の温泉とめざして關西を去つた。

○八月九日淺間山の北方の高原北輕井澤で此記事を書いてゐる時に、山本りと氏からの御たよりが東京からまはつてきた。八紘寮を散會してから、七人で六甲山へ登り、八月一日には再び櫻原神宮へ參り心ゆくまで拜したとある。

○はる／＼參加された會員は舊知と共に様々な楽しい行動をされた事であらう。○常の總會と違ひ櫻原に漂ふ聲國の大精神を感得された

會員個々の誠實の現れてあらうか「内に實力を藏する櫻蔭會員だ。起たば今此國難克服の爲何事をか成し得るであらう。」と思ふ頼もしさを感じた事を全會員に御知らせして不参加の方々へ贈物とする。

○大阪支部が總會を櫻原で行はうと發議され、然して之を成功裡に實現された事をれがまづ一つの證左てはあるまいか。

○終りに第二日の中食は日の丸辨當と思ひの外、眞夏にふさはしい淡白な野菜を主とした御料理の数々、不思議な氣持で喜んでゐたが、後で前日のおやつの西瓜と共に特に奈良、大阪、京都、神戸の四支部の方々の御もてなしたつたとわかつた。見學を急いで御挨拶も疎に申上げなかつた非禮を茲に改めて御詫し、併せて御厚遇を感謝いたします。

女子工業技術員養成所生徒の夏期作業について 沼澤 孝

製圖講習會は標題の如き改稱が行はれた。曾て本養成所生徒が卒業後、本會の主旨希望を社會が受け入れて從來の寫圖女工より優位の待遇を與へて呉れるかどうか甚だ心許ないと奥井講師に話した。

其後卒業生を中心にした組合を作つて、就職について好條件の期成、家庭副業、派出技術員の制度等女子の新職業として大發展を期し、併せて工業日本の國策に女子を大量に参加せしめようと云ふ案を示されたので直ちに賛意を表しておいた。

七月に入つて奥井氏より該組合組織の前提として滿洲航空會社の仕事を請合ひ、夏期休業中有志の生徒に實地の作業をさせようと云ふ案がどうかと相談されたので、之また直に賛成、生徒たちにも實地の作業が最効果あるゆゑ勉めて參加するやう勧めて置いた。其後國立の滿空會社より、もつと長期に涉つて作業する仕事を引受け、そして生徒の有志は國立の方で製圖の實習をやつて居つた。

..... 櫻原から北輕井澤へ轉じて暫く休養してゐると、國立の生徒の事が氣にかゝつて仕方がない。

賃金を貰つて仕事をする生活は彼女等に對して何か不安を感じしめてゐるものがありはしないか。健康の爲に不合理な事がありはしないか、奥井氏がよく保護して下さつて居られるかしら等々不安になり、八月四日他の用事もあつて歸京し、早速國立を視察した。

國立の朝は心地よいが作業所は狭い。見れば七八人顔を知らぬ女性が居る。奥井氏が特に晴々にこゝ／＼して迎へて下さる。

總會に關する感想及び希望

奈良支部 越智キヨ

三階にてその所長に逢ひ、櫻蔭會の主旨をよく話した。見知らぬ女性に會つて奥井氏が教へた寫眞工である事がわかり、其中の二人は助手として生徒を指導すべき人でもあると説明された。附近の家に合宿して居る事小學校の教育だけではないが、既に寫眞については熟練工である。生徒の如きはまだ全然素人だ。

然し高女卒業生と云ふ誇が兩者の融和を缺いてはならぬと思ひ、修身の講師の本領を發揮して一場の訓示をした。

之は生徒等が自分が見廻りにいつた事に對して大變喜んだやうな態度を示した事によつて感激した爲もある。

其時また奥井氏の話は進展してこの作業所だけでは間に合はず兩會館をも使用したい旨相談された。

其後兩所に於ける生徒の作業ぶりは眞剣其物である事、既に熟練工の萌芽を現はして居るものがある事、奥井氏も國立と大塚をかけもちして非常によく監督して下さつたらしく、廿四日に再上京して櫻蔭會の方を見廻つた時、折よく松村氏も御出になり、また企劃が進展して速達を以て急遽廿五日に委員會を開催し協議する事になつた。

明三一高

本會は謹んで弔意を表します

今回我が建國發祥の聖地、

樞原の八紘寮に於て、我櫻蔭會總會が開催されたことは大に意義があつたことと思ふ。

第一に樞原の御神靈の御前に、會員一同が謹みかしくこみて、天皇陛下の赤子教育の大任を擔ふ我等の光榮を心より感謝すると共に、過去に於ける熱誠の足らざりし爲めに、その成績の見るべきもの尠かりしことを深く御詫び申上げ、今後一層奮勵努力、専心斯道に精進して御信任に御答へ申上たき旨を御誓ひ申上げて、新しき力を興へられたことは、皇紀二千六百年の我總會としては最大の意義を持つたものといはねばならぬ。

第二に皇紀二千六百年記念事業として女子工業學校新設の件が満場一致を以て可決されたことである。是は現下世界の趨勢に鑑み、我國策上からも、女子の職場からその種の技術家養成機關を設立して國家に貢獻することは我會の義務であり、特權でも

あるとの熱烈なる設立委員よりの説明あり、直に満場一致を以て可決を見たるは一大快事といねばならない。どうか會員一人残らず應分の寄附金を献じて、是が完成を計り、非常時局奉公の一端を表したものである。

第三に此の總會に緊急動議として、本部役員諸姉の御勞苦に對して謝意を表したいとの申出あり、一同之に賛して萬腔の謝辭の申述が行はれたことである。かゝることは櫻蔭會としては創立以來最初のレコードであるとの本部役員の答辭があつたことは、何といつても會員一同の心の和の結實ともいふべきもので慶賀すべきことであると思ふ。

第四に我會設立の櫻蔭高等女學校が年と共に内容を充實した結果、入學志望者の如き全市を通じて他高女志望者數に比して第一位を示すとの報告を聽いて、宮川校長以下教職員御一同の非常なる御骨折であることを謝したることである。

第五に我櫻蔭會六十年史の編纂が主として斯波安、山崎ミツ兩姉が全く心血を注がれたの結果であることを教へられ、我會の歴史であり、女子

教育の歴史でもある貴重なる冊子が世に出づるを心より喜ぶと共に會員一人残らず之を購讀して我會の歴史を學び且つ將來に劃策する所なかるべからずといふ感を深くした。のみならず之を廣く吹聴して多くの人々に讀んでいただくことが兩姉に對しての、最も良い意味に於ける謝意の表現でもあると思ふ。

以上は私の今回の總會に對する感想の一端を述べたに過ぎないが、次に二、三の希望を述べて筆を擱きたいと思ふ。

第一、總會は何時も東京で開かれる例を破つて、今回始めて關西の地で、しかも、この樞原の聖地に於て開かれたのであるが、向後時々關西に於て開催されたいと希ふ。理由は關西地方會員に出席の機會を興へられん爲である。

第二、總會には會員萬障繰り合せて出席を見たいものである。それには會を愛する精神を養成することは勿論であるが、總會のプログラムの内に會員の修養或は向上の意味の講演會、見學等を加へられたいと思ふ。

第三、會員は會報を精讀されたいことである。是は會の認識を強めるにも必要であるが、會務處理に協力するにも必要なことである。例へば會

誌に總會重要事項の中に出席通知期日の揭示があるから、その期日を厳守し、若し變更の際は之が通知を怠らないやうにするが如きである。

八紘寮の集ひ

大阪支部 西脇りか

1、家庭破壊行爲のおわび

皇紀發祥の聖地樞原に、而かも八紘一字の大精神の修養道場である八紘寮におとまりして、畏くも神武創業の遠き御跡を偲びまつると共に互にその友情を温め、學生時代の若さに立ちかへつて、新體制の線に沿ひ、百八十度の轉回をして、お國の御用にと、張りきり得らるゝならば、全國からおより下さるといふ御苦勞に正比して効果百パーセントと思ひつきましたもの、さて勸誘状を出します際になつて、ア、しまつた、家庭破壊行爲ではないか、主人や子供をすて、それが只一日一夜ではあるけれど、小さい子供を主人につきつけて、此あつたら大變、然し自分はそれを勧めたものではなかつた。濟まぬ心持ちで一杯でした。これは大阪支部の會員に對し「全國からおいでになるのであるから、當支部員はぜひ接

待のため、とまりがけで出席してほしい」と切々たる勸誘状を出したせつなの感じでした。

2、茶葉を用ひられぬ惱み

八紘寮は修養道場であるから、室内ではお茶やお菓子召し上げらぬやう、お茶がほしければ食堂にて、と云はれてみると、どうにも不自由でならなかつた。同窓會のやうな和やかに、ゆつたりした會を開くには、嚴肅過ぎた場所であつたとあとで気がついたのでした。でも七月二十七日と云ふ酷暑の時期に、遠方から來られた方々に對し、お茶も出されぬ不便さ、不都合さ一杯のお茶も只一つのお菓子でもさし上げられぬつらさは、どうもまだ百八十度の轉回をして居らぬ不自由さと覺つたものでした。

修養道場と同窓會とは、どうにも都合が悪いものと始めて知り得ましたと共に、會員の皆様におかくおわびを申し上げねばならぬと恐縮いたして居ります。

3、懇親會らしくなかつた懇親會のおわび

あの宿泊料金ではお晝は日の丸辨當ときまつてゐます、あの二十八日のお晝は近畿の會員(奈良・京都・神戸・大阪)の心ばかりのおもてなしの御

馳走なのであつたのでした。せめて遠来の友を頼らうため新大阪ホテルにおよびせうかと案は立てたもの、二十八日から全園女教員大會在京都であるので、斯波先生始め京都へ行かれる方々が多くて、大阪へおよびは中止とし八紘寮で、あの御馳走で御辛棒願ふ事としたのでした。それがあの御馳走以上の御馳走は七、七の禁令に觸れてる譯ではないけれど、あの時は出来なかつたので、あの御馳走が最上の御馳走なのでしたので、まあ最高最上の御馳走でレコードやぶりのおもてなしを致しました譯で、どうか悪しからず御諒承のほどおわびと共にお願いいたします。

4、感謝

始めから終りまで全く不行き届きの事で御座いましたのに、東より西より北海道より南より御出席の會員諸姉には本部の役員の方々を始め「よくこんな和やかな、よい會をして下さつた、レコード破りの意義深い總會であつた」とお心からのやうお禮を仰つて頂きまして誠にうれしう有り難う存じて居ります。行き届かぬ點をおゆるし下さつて、よい會をしてきてと仰つて頂きますと、ア、すまなかつたが、その代り、今後は、會

の爲め、働かして頂かねばならぬとの責任感が、ひし／＼とせまつてきました。これも全く皆様のおかげと深謝いたしてをります。合掌

櫻蔭會工業教育研究部報告

松村 とみ

六月二十七日。生徒より就職につき希望条件をきく。入會案内五百枚を厚生省より要求し来る、軍人遺族の希望者を募集するためである。生徒の寫眞を撮り工業界の諸新聞に記載宣傳せしむ。なほ小形寫眞三十枚をつくり就職依頼文に添付する事とす。新聞記載の宣傳文左の如し。

事變以來軍需工業街に進出する女性が頗る激増し、女子禁制の重工業方面にさへその織手を伸ばして、新職業開拓に目覺しい活躍を續けてゐる事は周知の事實であるが、従來等閑に附されてゐた技術教育に禍されて、女工以上の技術員となる道がふさがれてゐるのが現状である。しかも一方充満する女工群の上に立つべき教養ある婦人を要する聲が漸く高まる趨勢に鑑みて、東京女子高等師範學校櫻蔭會では、時局柄女子に適する職

業で、しかも女工の指導者ともなり、且寫圖でなく稍高等なる製圖をなし得る女子製圖員養成の目的で、今春卒業した女學校新卒業生に呼びかけ、同校構内櫻蔭會館に四月より半年卒業の工業技術員養成所を開設した、來る十月末日には三十九名を社會に送りうる筈である、同養成所生徒は主催者が教育者であるから技術と人格との融和に特に留意し、志操堅固、品性高潔、眞面目なる婦人技術員且つ女工の域を脱したる技術者助手を養成するを目的とし、官公私立高等女學校卒業生のうちより選抜試験により入所許可したものである。

履修科目は 二四時間
修身
數學(三角、立體、幾何、解析幾何及微積分) 一二五時間
設計製圖及實習四七四時間
工業大意 七二時間
應用力學及工作法及機構法 七三時間
なほ申込多數の見込につき希望の向は成可く早く東京女子高等師範學校構内、社團法人櫻蔭會工業教育部女子技術員養成所あて申込まれたし。
夏期休暇は七月十日より午後休みとし、二十日より八月末日迄全部休みとした。但し生徒は奉仕のため八月一日より多くは三十日、少くとも十日は出席し製圖する事となる。

七月二日。評議員會にて右夏休暇中製圖を以て國家に奉仕せしむる事許可せらる。
七月四日。本校校長に八月一日より國家に奉仕のため製圖せしむる事の許可を得、但し徽章を佩用する事を條件とせらる。
七月八日。午後三時より委員會を開く。
出席者 斯波、中井、佐々木
松村
一、工業教育委員會及び技術員養成所の會計につき相談す。
一、第二回生は冬期に向ふため石炭木炭の配給を今より頼む事、但し費用は生徒よりとる
一、徽章は斯波役員より寄贈せらる。
第二回の募集につき各學校へ依頼する事。
七月九日。陸軍省課長に就職依頼狀に添付すべき推薦狀を頼む。
各務財團理事鈴木海上保險社長に養成所の報告をかね、暑中見舞狀を出す。
七月十日。松村、陸軍省に行き就職打合せをなす。
七月十一日。松村、江崎助教にバレーの指導をたのみに行き。
七月十二日。松村、服部工業學校長を尋ね工業學校の卒業生の待遇及び工業教育につき意見をきく。
七月十六日。陸軍省工政課長の推薦狀をそへ各研究所及び會社へ就職依頼狀を四十一ヶ所

出す、一二ヶ所豫約にて全部もらひ受けたしとの申込あれど、とにかく將來卒業生を配布の都合あり、なるべく廣く就職をつくらむとす。
就職依頼狀及び推薦狀左の如し。
人的資源潤滑の折から本女子技術員養成所の企圖は銃後女性の工業進出に最も相應しき事と認む何卒本養成所の特質を活用され愈之が發展に御協力あらん事を望む
月、日
陸軍省整備局工政課長
七月十八日。報知新聞より工業教育技術員養成所の事につき問合せ来る。
逸見計算尺の使用法を九月にする事となる。
休暇中の奉仕は最初八月一日より十一日迄國立の滿洲航空研究所にてする事となる。
七月二十日。閉所式を舉行、松

村委員訓示を與へ九時より掃除せしむ。
八月七日。沼澤主事國立に行き視察し一場の訓示を與へたり。
八月十二日。生徒半数づゝ國立と本館とに分れて本日より製圖する事となる。松村生徒の製圖狀況を見一層の奮勵をのぞんで訓示す。
某飛行機會社より製圖板二十五枚と文鎖百二十個とを借入れする、助手も四名来る。
八月二十六日。陸軍監督官の命により某飛行機株式會社機密掛長田氏來館、製圖者の身元調べ及び保管狀態の検査あり。
八月二十七日。國立に松村出張一場の訓示をなす、又滿洲航空研究所主任林元氏に面會、就職の打合せをなし將來を依頼して歸る。

出ず、一二ヶ所豫約にて全部もらひ受けたしとの申込あれど、とにかく將來卒業生を配布の都合あり、なるべく廣く就職をつくらむとす。
就職依頼狀及び推薦狀左の如し。
人的資源潤滑の折から本女子技術員養成所の企圖は銃後女性の工業進出に最も相應しき事と認む何卒本養成所の特質を活用され愈之が發展に御協力あらん事を望む
月、日
陸軍省整備局工政課長
七月十八日。報知新聞より工業教育技術員養成所の事につき問合せ来る。
逸見計算尺の使用法を九月にする事となる。
休暇中の奉仕は最初八月一日より十一日迄國立の滿洲航空研究所にてする事となる。
七月二十日。閉所式を舉行、松

社團 櫻蔭會第卅八回 會計豫算 (單位圓)

項目	昭和十四年度		昭和十五年度	
	收入	支出	收入	支出
第一項 會費	八、〇二四	九、一四二	一〇、四四一	七、六六二
第二項 前年度殘高	七、〇三七	七、〇三七	七、〇三七	七、〇三七
第三項 特別準備金	—	—	—	—
第四項 特別準備金	—	—	—	—
合計	一五、〇六一	一六、一七九	一七、四七二	一四、七二九

第五項 利子		第六項 雜收入		第七項 臨時收入		總計		第一項 會費		第二項 集會費		第三項 給料手當		第四項 郵便費		第五項 消耗品費		第六項 備品		第七項 税金諸料		第八項 慶弔慰勞		第九項 雜費		第十項 豫備費		特別準備金		既納額		殘高	
200	494	1	530	85	222	8,024	9,142	859	190	630	2,027	1,840	2,068	1,272	546	400	400	250	300	205	50	706	250	100	227	100	100	100	100	100	100		
200	530	85	222	85	222	9,142	10,441	807	190	617	1,924	1,737	1,947	1,307	520	400	400	253	300	168	50	605	217	85	165	85	85	85	85	85	85		
200	494	1	530	85	222	10,441	11,122	1,122	252	860	2,147	1,840	4,220	1,841	2,128	300	600	300	195	300	195	620	220	100	216	100	100	100	100	100	100		

總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子		總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子		總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子			
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452

總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子		總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子		總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子			
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452

總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子		總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子		總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子			
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452

總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子		總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子		總計		第一項 前年度		第二項 經常費殘高		第三項 經常費		第四項 利子			
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452
14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	14,787	15,399	13,844	13,844	543	1,103	400	452	400	452	400	452

七、購買部		八、女子教育(舊昇格準備金、豫算ニ計上セザルモノ) 研究資金(ニシテ女子教育ニ關スルモノノ資金)		九、原田女子教育研究資金	
總計	二、一九八	總計	二、二六五	總計	二、四〇七
第一項 前年度繰越金	一、〇九八	第一項 前年度繰越金	一、一八三	第一項 前年度繰越金	二、三六八
第二項 利益金	七〇〇	第二項 利益金	七〇〇	第二項 利子	三九
第三項 利子	—	第三項 利子	—	次年度繰越金	金貳千四百七圓八拾九錢也
第四項 寄附金	四〇〇	第四項 寄附金	三八〇		
支出之部	—	支出之部	—		
總計	二、一九八	總計	二、二七三		
第一項 提供金	一五〇	第一項 提供金	一五〇		
第二項 寄附金	二〇〇	第二項 寄附金	二〇〇		
第三項 給料	六〇〇	第三項 給料	六〇〇		
第四項 手當	六七	第四項 手當	六七		
第五項 贈與	二〇	第五項 贈與	二〇		
第六項 豫備費	五〇	第六項 豫備費	三五		
第七項 次年度繰越	一一一	第七項 次年度繰越	一九三		
收入之部	—	收入之部	—		
總計	一、五四三	總計	一、五四三		
第一項 前年度繰越金	—	第一項 前年度繰越金	—		
第二項 利子	—	第二項 利子	—		
支出之部	—	支出之部	—		
總計	一、五四三	總計	一、五四三		
第一項 女子教育研究部へ	—	第一項 女子教育研究部へ	—		
第二項 次年度繰越	—	第二項 次年度繰越	—		

一〇、基本金

収入之部	
總計	三、九三三
第一項 前年度繰越	三、六三六
第二項 利子	一六七
第三項 寄附金	一三〇
次年度繰越金	金參千九百參拾參圓貳拾七錢也

教育科學研究協議會 に出席して

教育資料蒐集部 北田 慰子

第二次近衛内閣は新體制の確立といふ重大使命をもつて登場した。そして首相は放送演説の中に東亞新秩序の構成に向つて邁進する日本が現在直面してゐる内外の諸問題に對する國民の善處と新日本文化の建設創造は「一にかゝつて教育の如何にある」旨を強調し、新文相は「科學振興」といふ新教育運動の基本的な性格を明瞭にして教學刷新に着手した。かゝる情勢に應へて今後教育界は科學的信念に立脚した熱烈眞摯な活動が一段と展開するであらう。

さて明年度から初等教育は、「國民學校案」が實施されるのと相俟つて今夏は非常に多くの講習會が開かれたが、其の一つに「教育科學研究協議會」があつた。「東亞新秩序建設の歴史的課題に應へて新世代の國民教育の指標と方法確立せんが爲

けるだらうか……。しかも是は女子教育の缺陷に起因するものが大きいといふ批評は仲々痛かつた。

新體制の下に於ては新しい教育形態が生れなければならぬ。特に青年期に到達する期間に於て國家的教育機關を設けて國民生活に則した國家的共同的教育を施される事が教育進展上望ましく、殊に女子に於て一層必要なのではないかといふ事を考へさせられた。而してかうした農村、都市の女子教育の實狀については櫻蔭會としても十分な調査をなし、高度女子教育の進展を計ると共に廣く各階層の女子生活の指導にも手を差しのべる必要はないであらうか。

更に協議事項の中に藝能科の「家事の問題」を大きくとり上げてゐた事は注意すべき事であつた。「家」の歴史的發展に伴つて家庭生活の合理化、共同化が着々と實行に移されんとする時代に於ては家事教育が従來の各個の家庭生活の理解と訓練に終始したのを擴大して國民生活の理解と訓練に及ぶべき事が要望せられるに至つた。此の爲家事教育の重要性が脚光を浴びて教育部門に大きくクロスアツプされて、家事教科の内容に鋭い批判のメスが加へられ、種々の改善意見が出て綜合教育としての家事教育が協議された。家事教育の刷新が女子教育の進展に最も重大な關係を持つ、従つて家事教科内容の檢討改善は急務であるが、本會員にとつてはまた大いに關心を有する所である。(かねて教育研究部の生活科で考案中ではあるが)

皇紀二千六百年櫻蔭會總會に出席して

明四四、文 山内 とし

樞原の宮居かしこみつとひきてなみたなかしぬ櫻蔭の人ひと八絃寮こゝにえらびてよき年を感激の會す櫻蔭の人ひと

看護婦募集

東京市麴町區九段四丁目
電話九段(33)六二番・六三番

●看護婦募集

診察(東京) 午前 午後
院長醫學博士 高田 研安
院長醫學博士 高田 重正
次長醫學博士 高田 重正

診察(前) 午前 午後
院長醫學博士 高田 研安
院長醫學博士 高田 重正
次長醫學博士 高田 重正

診察(後) 午前 午後
院長醫學博士 高田 研安
院長醫學博士 高田 重正
次長醫學博士 高田 重正

電話 茅ヶ崎二番・一〇二番
神奈川縣茅ヶ崎町海濱

昭英學園

寄宿舎 東京市東區谷町一丁目
東京市東區谷町一丁目
東京市東區谷町一丁目

新築移轉

受験部

女高師・音樂學校・津田塾・女子大・其他專門學校・受験準備

數學・國語・英語

本科—高女卒業生組
每日午前八時—午後三時

別科
日土科—高女五年生組
一週二回乃至四回放課後

特別科—高女四年生組
一週二回放課後

寄宿舎完備

塾生募集

▽本科 一ヶ年
修身、公民、常識、國語書道、語學、數學、家庭科學、家庭工作、家庭醫學、刺灸、裁縫等講義ニ伴フ實地見學確實ナル科學知識

▽裁縫科 一ヶ年
修身、公民、常識、國語書道、裁縫特ニ和洋裁縫ノ熟達

▽選科
本科ノ學科目中心任意選擇聽講

▽隨意科
茶道華道、手藝、ピアノ、長唄、タイプライター、運動、自動車操縱

▽入學資格
高等女學校卒業程度ノ素養アルモノ

▽入塾期
毎年四月ヲ學年始メトスルモ隨時入塾ヲ許可ス

寄宿便有
東京市澁谷區榮通一高正門前

女子科學塾
塾長 松井 喜三
電話 青山二九七〇番

高女卒業生募集

女高師二部 受験準備
女醫專

大成學館

場所 東京・神田・三崎町一ノ二
(省線水道橋下車)
電話 神田 一六二八番

同窓各位ノ御期待ニ添フヤウ熱心ニ指導ノ任ニ當ツテ居リマス。オ蔭様デ本年モ多數ノ合格者ヲ得マシタコトヲ御知セ致シマス

日本一のおいしいマルジヨウ醤油

各百貨店府公設市場有名酒店ニアリ

味噌 醬油

宮内省御用達 日本醸造工業株式會社

社長 農學博士 梶野明二郎



冷液にて簡単に染に牢堅

實用特新案 タカモダン染

發明者 東京女高師 前講師 高橋岩次郎
第六臨教 帝國女專講師 師

最も手藝染色に適する

タカモダン染料
染料塗附の色紙
タカモダン A・B・C 液
染繪の白粉(友禪染用)
染繪の蠟(揮發油不用)
この蠟は水洗で取れる

(用途)
描染(描いて直ぐ染まる)
無地
絞り
友と
皮草
蠟木
竹木
麥稈
防染
水其
他

◇染料一瓶金四拾錢(約二五染る) 東京市牛込區山吹町一八〇

染色法御入用の方は郵券金拾參錢御送付あれ

電話 牛込(34) 六六二二

昭和十五年九月十三日印刷

振替 東京 六五八九番 (櫻蔭會)

東京市小石川區大塚町三五

東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校構内
編輯發行所 向 笠 慎 三 郎